

テロリズムが反テロリズムになるとき：

テロの国家スポンサーが“テロリストを追う”

【訳者注】ミシェル・チョストドフスキーは、アメリカ（やその同盟国）とテロリストとの関係をはじめ、9・11以来のアメリカの隠された事情について、誰も知らなかった最も早い時期から、詳しい真相を教えてくれている学者の一人である。アルカーイダは CIA の asset（資産）だという話は、この人からかなり前に聞いた。

ここまで詳細に、検事のように厳密に、組織的に証拠を突き付けられては、誰も反論できないだろう。

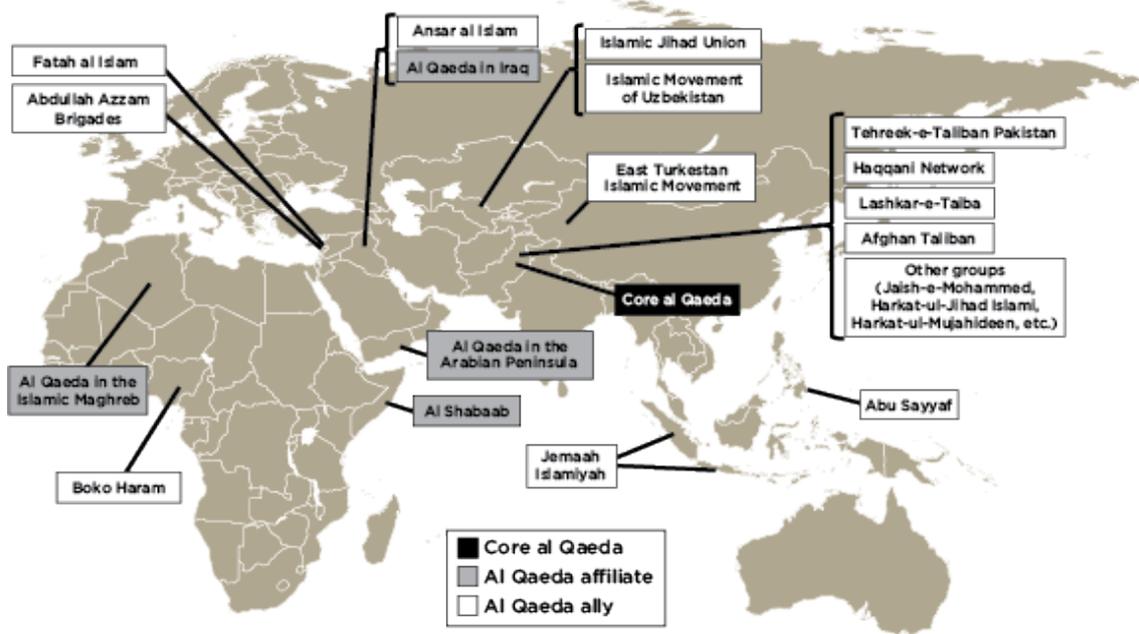
アメリカ（や同盟国）の悪辣で破廉恥なやり方を、アル・カボネや犯罪シンジケートに例えている比喻（p.7）は、比喻を超えて現実そのものとも言えるだろう。彼の悲憤が伝わってくる箇所でもある。この世界は、我々全体を巻き込んで、犯罪と墮落が支配する世界と**言うべき**だろう。

Prof. Michel Chossudovsky

December 22, 2015

米外交政策は、CIA の創作物であるアルカーイダを、35 年以上にもわたって養育してきたが、それを援助したのは、パキスタンの情報局 ISI（Inter Services Intelligence）、サウジアラビアの悪名高い情報機関 GIP（General Intelligence Presidency）であった。念のために言っておくと、オサマ・ビン・ラディンは、1979 年に、ソ連 - アフガン戦争の初期に、CIA によって徴募された。

アメリカとその同盟情報局の監視する、アルカーイダ関係のテロ組織の複雑なネットワークは、広く展開して、中東、北アフリカ、サハラ以南のアフリカ、中央アジア、西中国、南および南東アジアにまで延び広がっている。



主流報道による、“ジハード”テロリストに対する CIA のひそかな援助の分析は、タブーになっているが、西側のメディアはしばしば（専門家の意見を引いて）、テロリストを（アメリカに逆らって）援助しているのは、アメリカに最も近い同盟国のパキスタンの ISI や、サウジの GIP などだと言っている。ランド研究所（Rand Corporation）によれば――

パキスタンは特別の難題を呈している。アメリカのパキスタンとの関係が悪化するにつれて、アメリカは、その情報局[すなわち、CIA と密接な関係にある ISI] が Haqqani ネットワークや Lshakar-e-Taiba のようなアルカーイダの同盟者と絆をもつ国家に、どれほど長くプレッシャーをかけられるだろうか？（Seth Jones, *Resurgence of Al Qaeda*, Rand Corporation Report 2012) <http://www.rand.org/pubs/periodicals/rand-review/issues/2012/fall/leadership/resurgence-of-al-qaeda.html>

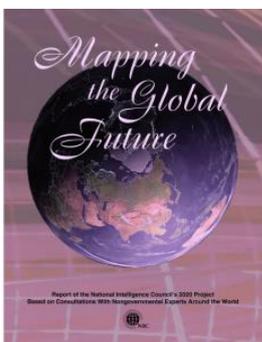
イスラム国カリフ統治＝米情報部の計画

今日のアルカーイダの最も新しい“近縁集団”である、北シリアのラッカに本拠をおく「**イラクとレヴァント・イスラム国**」（ISIL）は、アメリカとその同盟国に保護されているだけでなく、それはアメリカ - NATO によって訓練され、財政援助を受けている――トルコやイスラエル、ワシントンのペルシャ湾同盟国の援助と共に。

皮肉なことに、プロパガンダの道具としての、このカリフ国計画は、10 年以上もの間、アメリカ情報部の計画板に描かれていた。2004 年 12 月、ブッシュ政権のもとで、国家情報会

議 (NIC) が、2020 年には、地中海から中央アジア、東南アジアまで広がる“新カリフ国”が誕生して、西側の民主国家や西側の諸価値に脅威を与えるようになる、と予言した。

NIC のこの“決定”は、123 ページの、極秘を解かれた報告書“Mapping the Global Future” (地球の未来設計) に発表された。 <http://www.futurebrief.com/project2020.pdf>



“新カリフ国”は、根本的な宗教一致政策に力を得た地球運動が、いかに**地球的制度の基礎としての、西洋的規範や諸価値への挑戦**になりうるかの一例となる。(強調引用者)

この NIC 2004 報告は、ほとんど滑稽といってよい。それは歴史的、地政学的な分析はもちろんのこと、全く知性を欠くものである。それは政府官僚の感覚を刺激するのが目的の、内部プロパガンダという特徴をもっている。その目的は、アメリカの“テロに対する地球的戦争”に対する、正当な理由を創り出すことにある。

我々の期待するのは、2020 年までに、アルカーイダは、同じような精神をもつイスラム過激主義の集団群に取って代わられることで、そうすれば、アルカーイダに近い幅広いイスラム運動が、各地の分離主義運動と合体するという確実なリスクがある。情報テクノロジーは、即刻の結合、交信、それに学習を可能にし、テロリストの脅威をだんだんと脱中央化させ、彼らは任意のグループ、細胞組織、個人に分かれ、作戦を計画実行する固定した司令部を必要としない。訓練の材料、標的の指令、武器の使い方、それに資金集めは、仮想現実 [つまりオンライン] になるだろう。

(出典：“Mapping the Global Future”, NIC 2020 Project)

とはいうものの、この計画は、ある悪魔的な軍 - 情報部アジェンダが、新しい“ジハーディスト”テロ部隊 (多くは傭兵からなる) をもち、多くの地理的な場所 (ユーラシア、アフリカ、**上の地図を見よ**) に現れているという、その輪郭を確認させるものである。この新しい“ジハード”を創るというアジェンダは、ある **Debka File** (イスラエル・情報および安全保障ニュース) 報道によって確認された。

ブリュッセルの NATO 本部とトルコ高等司令部は、一方で、シリアでの彼らの最初の軍事行動のプランを策定中で、それは反政府派に武器を供給することである。…

また、ブリュッセルとアンカラで検討されているのは、我々の情報元によれば、**中東諸国とムスリム世界から数千人のムスリム志願兵を募集し、シリア反政府軍と一緒に戦わせる計画である。トルコ軍がこれらの志願兵の宿舎を提供し、列車に乗せてシリアまでの輸送を確保することになる。**(DEBKAFfile, “NATO to give rebels anti-tank weapons,” August 14, 2011, 強調引用者)

この報道は (4 年前に出た)、現在あまりにも明らかとなったこと、すなわち、トルコ政府と軍が、NATO と野合して「テロリズムの国家スポンサー」の中心的役割を果たしていることを確認させる。

“U ターン”：テロのスポンサー国家が反テロに変身——サウジアラビア、トルコ、パキスタンの役割

そして今、奇妙な U ターンを見せて、サウジアラビア王国は、34 の主としてムスリム国家の連合を作って、「イスラム国追討」の挙に出た。ひどく皮肉なことに、この“国際共同体”によって認可された反テロ行動の先頭に立つのは、サウジアラビア、パキスタン、それにトルコ——すなわち、そもそもの初めからワシントンと手を組んで、情け容赦なく“イスラム主義テロ”を支持した国家群であった。ヒラリー・クリントンの、秘密でなくなった E メールという言葉によると、「サウジアラビアの寄付者たちが、世界中のスニ派テロ集団に対する、最も大きな財源になっている。」

テロリズムの国家スポンサーによる反テロ行動？ 新遊牧民？ このプロパガンダ作戦は袋小路に入ったように見える。公的な声明によれば——

「ここにあげられた [34 の] 国家は、テロリズムと戦うために、サウジアラビアを先頭とする軍事同盟を形成する決意をした。合同の作戦本部はリヤドに置き、軍事作戦を調整し支持することにする。」



Arab News December 2015

この“軍事同盟”は、2014年8 - 9月にイスラム国に対して形成された、約20か国の連盟を巻き込む、オバマの反テロ爆撃作戦と連携して活動する。しかし証拠は、この爆撃がISISを標的とすることを避けていることを示している。このISILは、米 - NATOと恒久的な関係にある、特別部隊を含む、傭兵によって構成されているからである。

「もし君たちがアメリカを脅かすなら、安全な逃げ場はない」
 オバマがテレビ演説を通じて、シリア空爆によるISISの撃滅を誓う——しかし地上軍はないと主張

- * オバマは、「イスラム国」を「純粋で単純なテロ組織」と烙印
- * 「我々はISISを、包括的で持続する反テロ戦略によって、弱体化し、究極的に撃滅する」
- * 4ポイント計画には、空爆、イラク軍部隊の支援、ISISを不能にする反テロ活動、および新たな人道的援助がある
- * 大統領は、シリア反政府軍を武装するために、議会から5億ドルを要求する

(スクリーン・ショット、Daily Mail)

サウジアラビアの防衛大臣モハメド・ビン・サルマン皇太子は、2015年12月14日、この作戦は「テロとの戦いの努力を調整するだろう」、特にイラクとシリアでは「諸大国や国際

組織 [すなわち NATO、米、EU] との調整があるだろう」と確言した。

異常なねじれが起こって、テロリズムの国家スポンサーたちが、今、反テロリズムに傾注している。**アラビア半島のイスラム国**、すなわち、ワハビズム教義に基づくサウジ議会在、**北シリアのイスラム国**を追跡しているのである。

よく知られ記録されていることだが、サウジアラビアは、ワシントンのためにテロリズムを後援し資金援助するさいに、決定的な戦略的役割を果たしてきた。のみならず、米やカナダからのサウジが武器を買った金は、ISIL やアルヌスラを含む、シリアのさまざまな“反政府” 集団を、装備させ武装させるのにも用いられている。

覚えておくべきこと——アメリカの同盟国によって集められた ISIS 傭兵の大多数は、ISIS に入隊するという条件で、サウジの監獄から釈放された有罪刑事犯たちである。サウジの死刑囚たちが利用されて、テロ部隊に入隊させられている。(2013/1/23)

<http://www.businessinsider.com/saudi-arabia-sent-inmates-against-assad-2013-1>

BUSINESS INSIDER

リークされた内部メモにより、出獄したらシリアのアサドと戦うという条件で、サウジの官憲が 1,200 人の死刑囚を転送していたことを明らかになった、とアッシリア国際ニュース局が報じた。

メモから——

我々と彼らの合意により、**彼らは死刑宣告を免除され、**
彼らの家族や愛する者たちには月給が与えられるが、
家族は、服役者を更生させ、**シリアのジハードへ送る**
ために訓練する見返りに、サウジから外へ出ることは
禁止される。

サウジの官憲は明らかに選択を与えたのだろう——斬首かジハードか？
全体的に言って、イエメン、パレスチナ、サウジアラビア、スーダン、
シリア、ヨルダン、ソマリア、アフガニスタン、エジプト、パキスタン、
そしてクエートの服役者は、シリアへ行って戦うことを選んだ。

(スクリーン・ショット)

英、仏、そしてアメリカは、このサウジのやり方を歓迎している。ジョン・ケリーはこれを建設的だと言った。国連事務総長の潘基文は、サウジアラビアの「建設的な努力とリーダーシップ」を、はっきり称えた。

これは**不条理劇**である。あたかもアル・カポネに頼んで、シカゴの犯罪シンジケート連合を率いて、犯罪組織を追ってもらおうようなものだ。この場合は、リヤドに拠点をもつ犯罪シンジケートが、その西側スポンサーのために行動している。

そしてメディアは称賛の合唱をする——サウジ、トルコ、パキスタン、カタール、ヨルダン等が、イスラム主義テロリストの募集、訓練、資金援助に関わっていたということを確認する、自分自身の報道のいくつかを認めることなく。シリアでの ISIS 隊員による市民の首切りの習慣は、サウジアラビアから発している。少し前の、デイリー・テレグラフ報道 (2014年4月) によれば——

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/middleeast/syria/10770311/Syria-As-the-bombs-fall-the-people-of-Damascus-rally-round-Bashar-al-Assad.html>

我々が見落としてならない事実は、[シリアの] 豊かな、聖俗に関わる、信じられないほど複雑な文化を破壊し、モノクローム的な、ワハビ・イスラム版に置き換えようとする計画が存在していることである。

主流メディアがいつでも、絶対に口にしないことは、サウジアラビアは“仲介者”であって、ワハビ・イスラムは、ワシントンによって都合よく利用されていることである。また大衆は、これは本物の宗教戦争で、ムスリムは西洋文明に向かって戦争を仕掛けているのだと、思いこまされている。

この“ワハビズム版”というのは、イスラムとは関係がない。それは「メード・イン・アメリカ」、米外交政策の悪魔的な道具であり、アンクル・サムのためにジハードを行うように、テロリストを洗脳する手段として、ワハビズムのイデオロギーを適用し操っているのである。米 - NATO の国境なき戦争は、気づかれないまま進行する。世界の世論は、イスラムが西側に戦争を仕掛けていて、米 - NATO は、中東に拠点をもつ掴まえ所のない外なる敵に対し、“自己防衛”で行動しているのだと、思い込まされている。

政治家、ジャーナリスト、それに情報アナリストは、自分にウソをついている。誰でも、サウジアラビアとがトルコが、テロリストの背後にいることを知っており、我々はまた、アメリカが、サウジとトルコの背後にいることを知っている。

アメリカが、このテロ企業の張本人であり、それは、国際法に逆らって主権国家を不安定化し破滅させる目的で、テロリストを援助することにある。

2013年に、ヨーロッパ議会は、詳しい報告書を発表したが（下に抜粋、p.7）、それはサウジアラビアが、ワハビ-サラフィストのイデオロギーを、多くの国々のテロ集団に、拡散しないことを確認するものだった。しかしこの報告書は、これらの行動が、アメリカの外交政策・情報アジェンダの一部として行われていることは、認めなかった。

<https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=sites&srcid=ZGVmYXVsdGRvbWFpbnxoYWlkZXJub3Rlc3xneDo3NDEwMDI3NjViZTNjODZm>

アメリカは、財政援助ネットワークがアラブ諸国から発して、慈善機関を通じて、テロリスト組織の手に渡っていることをよく知っている。米務省の2009年12月の日付のあるメモには、「サウジアラビアの寄付者が、世界中のスニ派テロ集団への資金援助の、最も重要な財源となっている」と書かれている（The Guardian, 2010/b）。サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、それにクエートのような国は、富裕で保守的な寄付者が、慈善や宗教機関を通じて、テロ組織を支援するのを、ほとんどやめさせようとしていない。…

（スクリーン・ショット, “European Parliament Report,” p.7）